砺波市文化会館事業のご案内

チケット好評発売中

オリジナルミュージカル「クラウドナイン！」

稽古の様子

２０２４年
３月２日（土）１７:４５開場／１８:３０開演

３月３日（日）１２:４５開場／１３:３０開演

指定席　**１,５００**円（大人・高校生以下共通）
自由席　**１,２００**円（大人）
　　５００円（高校生以下）
※となみ芸術文化友の会会員　10%割引（各日２枚まで）
※自由席のみ当日３００円高。指定席料金はそのまま。

あ ら す じ

のどかな田園風景が広がるこの村では、夏の空に勢いよく沸き立つ特大入道雲を「クラウドナイン」と呼び、子どもたちにもこの雲のように純粋で伸び伸び育ってほしいと願っていた。いつものように収穫作業を手伝った子どもたちは、その褒美としてトラックに乗せてもらい町へ向かう。子どもたちにはどうしても町へ行きたい理由があったのだ。はやる気持ちを抑え、僅かな小遣いと一枚の紙きれをもって町に到着した子どもたちは、賑わう町に圧倒されながらテント小屋の前に来る。大興奮する子どもたちだが、小遣いをすられたことに気づき途方に暮れる。無一文になった子どもたちは帰るに帰れず、ある一大決心をする。

となみ芸術文化友の会 会員の皆さまにおかれましては、２日・３日どちらかの公演の自由席チケット１枚と引き換えられる引換券をお送りしております。ぜひこの機会にご覧ください。

共 催 事 業

チケット好評発売中

CHEMISTRY（ケミストリー） ホールツアー 2024 “BEGINS”

「BEGINS」と題された久しぶりとなる全国ツアーでは、2024 年の“はじまり”という意味もありながら、2026 年に迎える CHEMISTRY デビュー25 周年に向けての“はじまり”という意味も含まれる。
新たな CHEMISTRY に向かっていく、まさにそのスタートとなる大事なライブとなることは間違いない。
「いままで」と「これから」が起こす CHEMISTRY による化学反応を生で体感してください！

２０２４年
３月９日（土）　１７:００開場／１８:００開演

全席指定　**８,８００**円
※会員割引が適用されない公演です。

となみ芸術文化友の会

友の会だより第５９号　２０２４年1月

〔 発行 〕　となみ芸術文化友の会事務局（砺波市美術館内）
〒939-1383　富山県砺波市高道 145-1　電話 0763-32-1001

新年のご挨拶　－ふる雪を－　　となみ芸術文化友の会会長　谷口 美都江

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は友の会の活動にご理解とご協力を賜りまして、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

コロナウイルスの脅威がだいぶ和らいで、通常の活動ができるようになりました。令和５年度の活動として、５月の総会後のコンサートに、前会長の廣瀬愼一さんを偲んで、瀬川三郎さん、松村幸子さんによる浄瑠璃語り、９月に杉野館長による講演会、１０月に長野方面の研修旅行での美術館巡りなどがありました。

コロナ禍のときには十分にできなかった会員同士の親睦を深めることができました。会員の減少などの問題はありますが、友の会の活動を続けていくことの大切さを改めて深く思いました。

ふる雪を腰になづみて参り来し　しるしもあるか年の初めに
（万葉集　巻十九　四二三〇　大伴家持）

（降る雪の中を腰までつかってたいへんな目にあいながらやってきたよ。年の初めの大雪だから、今年はきっといい年になるだろうよ。　――――　家持が越中守として在任中の天平勝宝三年（７５１）の（旧暦）の正月三日、越中介（えっちゅうのすけ）の館に集まって新年の宴があったときの歌で、この日は大雪が降ったということでした。年の始めの大雪は豊年となることが多いので、いい年になると思ったことでしょう。）

今年も楽しく有意義な会となりますように活動して参ります。
皆様のご参加をお待ち致しております。

友の会講演会のご案内　**********

演　題：「紫式部日記・紫式部日記絵巻」

－寛弘５年（１００８）１１月１日敦成（あつひら）親王の五十日（いか）の祝いの儀の場面を中心に

「御堂関白記」（藤原道長の日記）と「小右記（しょうゆうき）」（藤原実資（さねすけ）の日記）の記事と併せて－

会　場：砺波市美術館２階　市民ギャラリー
日　時：令和６年２月４日（日）午後３時３０分から
講　師：となみ芸術文化友の会会長　谷口　美都江
対　象：どなたでもご参加いただけます（**聴 講 無 料**）

五島美術館ホームページより

となみ芸術文化友の会研修旅行紀行文

友の会会員　出村　忍

日　程　令和５年１０月１９日（木）
見学先　水野美術館・長野県立美術館（善光寺自由散策）
参加者　２５名

今年の研修旅行は、１０月１９日、長野市方面。水野美術館と長野県立美術館と聞いて、秋の信濃路を楽しみに参加しました。毎度案内をいただきながら、なかなか参加できずにいましたが、今年は何とか日程を確保でき天候にも恵まれて幸運でした。

往路長いバス乗車時間には、谷口会長から万葉集の中の信濃・古典文学の中の信濃・長野あるあるについて資料に基づく解説があり、頭をひねりました。このように、出典資料に基づくお話は、ふむふむなるほどと理解が速い。バスの中でも、しっかり研修です。

水野美術館では、水野コレクション「キーワードで紐解く風景」小特集川合玉堂生誕１５０年展を見学。自動扉が開くと奥田元宋の真っ赤な紅葉の渓流が目に飛び込んでくる仕掛けに驚き、思わず「オォオ～～～！！」と声がでました。理想郷、日常のひとコマ、心象、雄大な自然の四季を捉える玉堂の眼と筆づかいに感動しました。

昼食は、街なかビル９階の「宴席油や」で美味しくいただき、エネルギーを蓄えて、午後は、長野県立美術館の鑑賞と時間のある人は隣接する善光寺を散策しました。

１９６６年開館の長野県立美術館は、２０２１年に全面新築改称。
全体解説がまず水辺テラスであり、ちょうど中谷芙二子の霧の彫刻に出会えて、幸せ気分を満喫しました。砺波市美術館にも８作品を収蔵する池田万寿夫の展示、屋上の風テラスから善光寺の全景や街並み山並みを眺望し、別館の東山魁夷館を見学。覚悟はしていたものの、足を棒にし、更に善光寺も駆け足状態で見て回りました。

個別の感想は省略させていただくとして…「どれもこれも、もっとゆっくりみたかったなあ～～～」と、薄ら汗を浮かべて、必死にバスに戻った愉しくて贅沢な秋の信濃路。帰路には、お土産に信州りんごなども仕入れました。

参加者の皆様も、それぞれの想いをめぐらせられたことでしょう。

長野県立美術館にて

砺波市美術館事業のご案内

砺波市美術館　企画展

館蔵品展「砺波市美術館コレクションにみる写真　-ラルティーグ、ドアノー、高道 宏-」
砺波市美術館学芸員　末永　忠宏

砺波市美術館では「国際的に評価できる写真作品」を集めるという収集方針を立て、著名写真家の写真展を収集してきました。１９９６（平成８）年、ロベール・ドアノー作品４０点の購入から始まった当館の写真コレクションは現在、４８５点となっています。今回の館蔵品展はこのコレクションに着目しました。本展で展示する３人の作家を紹介します。

ジャック=アンリ・ラルティーグ（１８９４-１９８６）は、フランスの裕福な家庭に生まれました。7歳のとき父親からカメラを与えられています。幸せな時間がすぐに目の前から消え去ってしまうのを恐れていたラルティーグは、そうした瞬間を残せるカメラという新しい魔法の機械にたちまち夢中になり、身近な愛する人たちや日々の生活を撮影しました。無垢な心で写真を楽しみ、過ぎゆく時間や人生の歓びを捉えようとしました。

ロベール・ドアノー（１９１２-１９９４）は、フランスの写真家です。１９４０年代の終わり頃からパリの街角に出て市井に生きる人々の写真を撮り始めます。愛用の二眼レフカメラのローライフレックスを「なんと礼儀正しく、慎み深いことか」と評しました。これは撮影するときに身体の中心で構えるため、背中を曲げ、まるでお辞儀をするような格好で被写体に敬意を払っているようになってしまうことを言っています。人びとが織りなす多様なドラマを鋭い洞察とユーモアに満ちた感覚で撮影しました。

髙道宏（１９３６-２０１６）は、砺波ゆかりの写真家です。幼少の頃から芸術に関心を寄せ、川辺外治から洋画を、国画会写真部で活躍した叔父の髙道夕咲人（ゆうさくじん）から写真の手ほどきを受けました。「ファミリー・オブ・マン」写真展で見たウィン・バロックの作品に「絵画表現とは全く違った強い力があることを感じ」て、写真家を志します。日本の樹林や湖沼、川の流れを自らの豊饒な感情を込め自家製印画法で表した「自然」シリーズは、文字通り髙道のライフワークと言えるでしょう。展示ではこの「自然」シリーズより、晩年に取り組まれたプラチナ・プリントを紹介します。

それぞれの美意識が印画された、味わい深いモノクローム写真 71 点をお楽しみください。

ロベール・ドアノー〈パピヨンの子供〉

会　　期：令和6年1/13（土）～2/25（日）
休 館 日：1/15(月)、22（月)、29（月）
　　2/　5(月)、13（火）～16（金）
観 覧 料：無料
関連催し：2/10（土）14：00～
　　担当学芸員のギャラリートーク
　　砺波市美術館　１階企画展示室